

愛努民族所講述的「起源故事」

アイヌ民族が語る「はじまりの物語」
Origin Stories Narrated by the Aynu People

文・圖 | 北原 次郎太 mokottunas
(北海道大學愛努族・先住民研究中心准教授)

譯者 | 陳由璋 (政治大學民族學系博士生、日本北海道大學愛努・先住民學講座博士生)

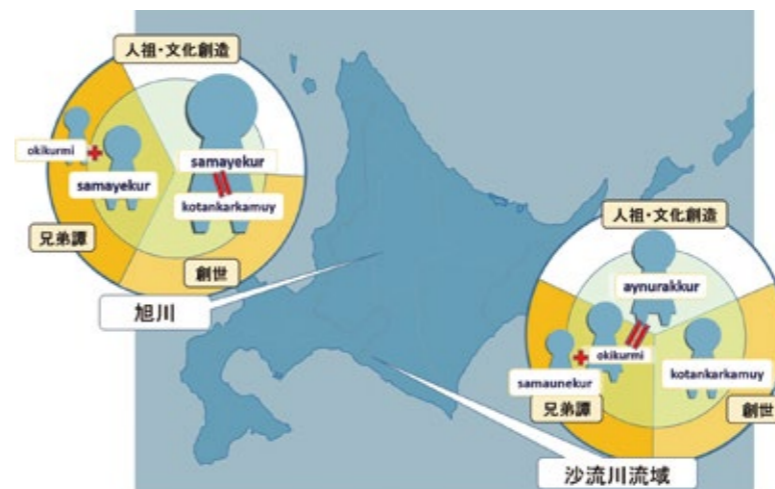
文責・圖 | 北原 次郎太 モコットウナシ
(北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授)

訳者 | 陳由璋 (政治大学民族学学科博士課程、北海道大学アイヌ・先住民学講座博士後期課程)



2013年から始まった「イランカラッテ」キャンペーンのロゴマーク。アイヌ語とアイヌ文様を組み合わせたデザインを使用し、アイヌ語の「こんにちは」で北海道の特色を押し出している。(出典:「イランカラッテ」キャンペーン推進協議会 <http://www.irankarapte.com/>)

2013年迄今産官學合作舉辦的irankarapte活動標誌。設計概念結合了愛努語與愛努紋樣。以愛努語的您好打造北海道的當地特色。(圖片來源:「イランカラッテ」キャンペーン推進協議會 <http://www.irankarapte.com/>)



旭川(上川)と沙流(日高)における神格の名称・職能の違い。
旭川(上川)與沙流(日高)的神格名稱、職能的差異。



十勝地方の伝説採録地。
十勝地區的傳説採録地。

アイヌ民族の伝説中にも、世界や人間その他の事物、色々な習慣などの起源を語る「はじまりの物語」が様々ある。それらのいくつかを紹介し、台湾の先住民文学との共通点にも触れてみたい。

アイヌの伝説として知られるのは北海道南西部の日高地方、胆振地方のものである。同地ではじまりの物語の主人公となるのはアイヌラックルやオキクルミ、またしばしばポイヤウンペである。いっぽう、十勝や釧路、北見から上川といった北海道の東北部ではサマイエクルがその位置にある(地図1)。ここでは北海道の東部、十勝地方の話を取り上げ、世界とそこに

在 愛努民族の傳説中，也有很多「起源故事」是講述世界、人類與其他事物、各種習慣等的起源。我想先介紹這些故事中的幾個故事，然後也再談與台灣原住民文學的共通處。

一般所知的愛努傳說是北海道西南部日高地區、膽振地區的故事。該地是起源故事的主角是アイヌラックル或オキクルミ，或是有時候是ポイヤウンペ。另一方面，在從十勝或釧路、北見到上川這區稱為北海道東北部該主人位置則是為サマイエクル(地圖1)。在此我選出北海道東部、十勝地區的故事，以世界與其中事物的起源、人類的起

ある事物のはじまり、人間のはじまり、文化のはじまり、退去の話の順に見て行く。これらは1907年から1909年にかけて、アイヌ子弟向けの学校で教員をしていた吉田巖(よしだいわお)が記録したものである。それぞれの伝承が語られた場所を地図に示した(地図2)。アイヌ語の表記は出典のままとした。

世界のはじまり

①北海道はコタンカラカムイとサマイクルカムイとが造った島で、はモシリケシ(上ノ国)から造り始め、モシリパ(知床)で終え、全体を魚の形に造った中を造った。そこ島を仮に動かして見たら、島が揺らいでひびが入ったので、鍋や斧などの金属を溶かして流し込んだ。北海道の鉱物はこの時の金属である(十勝帯広市伏古)。

源、文化的起源、離去的故事依序列出。這些是從1907年到1909年為止，由愛努學子取向的學校教員吉田巖(YOSHIDA Iwao)所記錄下的故事。這些傳承所流傳的地點如地圖所示(地圖2)。愛努語的表記則保持出處資料原記。

世界的起源

①北海道はコタンカラカムイ與サマイクルカムイ所創造的島，是從モシリケシ(上之國)開始創造，在モシリパ(知床)結束，整體是創造成魚的形狀。假使試著晃動島的話，因為島搖動後會產生裂痕，鍋子或斧頭等金屬則會被融解並流進其中。所以北海道的礦物就是當時的金屬(十勝帶廣市伏古)。



巨神による国土の創造。鎌や手足で地形を作った。(イラスト：小笠原小夜)

巨神創造国土。用鎌子與手脚造出地形。(插圖：小笠原小夜)。

②シヤマイクルとは、尊い神の名を口にするのははばかり、その住まいにちなんで呼んだ名前だという(明治42年2月21日 音更村)。
③サマイクルは着物の裾と、刀の鞘の下端だけが、赤いものであったという(帯広市伏古 日高地方ではアイヌラックルは火の属性を持つ女神の子であることから、着物や刀の鞘がいつも燃えているというが、そのことを思わせる記述である)。

伏古)。

②所謂のシヤマイクル、是因忌諱講出尊貴神明的名字、而以關於神的居住地來稱呼祂的名字。(明治42年2月21日 音更村)。

③據說シヤマイクル只有在他的衣服下緣與刀鞘下端是紅色的(帶廣市伏古 在日高地區據說アイヌラックル是具有火屬性的女神之子、衣服與刀鞘總是在燃燒的情況來看、以上記述會讓聯想到這件事)。

④カワウソがシヤマイクルに退治されて逃げる時、川を飛び越えようとしたが落ちてしまった。背中に背負っていた塩俵の塩が流れ下り、そのために海の水が塩辛くなった(明治40年4月8日 芽室太)。

⑤昔ポイシコツペとシヤマイクルとが雪中で雪合戦をして遊んだ。その雪塊からイシヨポ(兎)が生まれた。多くの動物の中で最も貴重なものとされるのはこのため。兎の骨は干しておいて風邪を引いたりした時に煮出して汁を飲み、肉を削って飲んだりする。(明治40年1月29日 音更)。

これらの神は、たいへん大きな体をしていたことから、足あとや持ち物などが岩や山になって残っているとされる。⑥国造りをした時、シヤマイクルが連れていた犬の足跡といわれるものが広尾と大津近辺に一箇所ずつある。ほかにもシヤマイクルの遺蹟というものには十勝の処々にあり、芽室川の兩岸、ウォルシタプコプとヤウシタプコプの二つの小山は、サマイクルの舟をつないだ杭と網を干したあとであると言っている。本別にも浦幌にも魚を獲る築が石になって残っている(十勝帯広市伏古)。
⑦シヤマイクルの乗ってきた船を伏せたのが山になってモヨリの近所の海岸に残っている。またその足跡というのが石に残っている(明治40年2月21日 音更村)。
⑧大昔シヤマイクルはこの十勝の国を去る時に、日高の様似方面に去った。その途中の川原にこの神の休んだ跡や寝ころんだ跡が石の上に残っているという(明治40年4月4日 音更村)。

④水獺被シヤマイクル驅離逃走時、想要跳過河川時不小心掉到河裡，他背上所揹的鹽袋的鹽被水沖走，因此海水才變鹹的(明治40年4月8日 芽室太)。

⑤以前ポイシコツペ與シヤマイクル在雪裡玩耍打雪戰。那些雪塊中生出了イシヨポ(兔子)，因此兔子為許多的動物之中最為珍貴的。兔子的骨頭曬乾後感冒時可以熬成湯來喝，也可以削肉煮來喝。(明治40年1月29日 音更)。

傳說這些神明大多都有巨大的身體，所以祂們的足跡或持有物等幻化成岩石或群山後殘留了下來。⑥創造國土後，據說是シヤマイクル所帶的狗的足跡則各有一個在廣尾與大津附近。也有其他說是シヤマイクル的遺蹟是在十勝的各地，傳說自芽室川の兩岸、ウォルシタプコプ與ヤウシタプコプ這兩座小山，是用來曬乾綁シヤマイクル的船所用的木樁與漁網的舊址。也在本別與浦幌也有捕魚用的梁變成石頭(十勝帶廣市伏古)。
⑦シヤマイクル所搭乘的船倒放後成為山並留在モヨリ附近的海岸。另外，祂的足跡變成了石頭(明治40年2月21日 音更村)。
⑧好久以前シヤマイクル離開十勝之國時，朝日高的樣似方向離去。傳說該神在途中的河床休息的痕跡與睡覺的痕跡則留在石頭上(明治40年4月4日 音更村)。

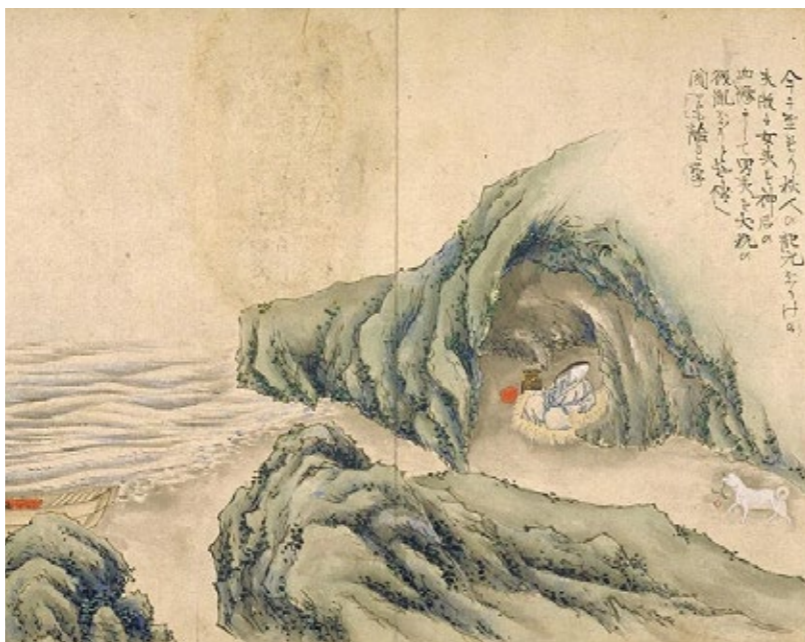
人類的起源

⑨以前、シヤマイクル將自己的妹妹放入箱裡後隨海漂流後，飄到北海道。妹妹受到狼的幫助並結成為了夫妻。在該地生出的小

人間のはじまり

⑨昔、シヤマイクルが自分の妹を箱に入れて海に流すと、北海道に流れついた。妹は狼に助けられて夫婦になった。そこに生まれた子がアイヌの祖となった（明治40年12月24日）。

⑩シヤマイクルもポイシコツペもカムイだろうが、アイヌの祖でもあるだろう。カムイはアイヌに色々な事を教えさせるためにシヤマイクルなどをつくったのだろう（明治40年3月27日）。



『蝦夷島奇観』（19世紀初）に描かれた犬祖説話の絵。北海道大学図書館所蔵。
《蝦夷島奇観》（1919世紀初）所繪製的犬祖傳說的圖。北海道大學圖書館所藏。

文化のはじまり

⑪シヤマイクルが本州の粟をアイヌに教えようと、そつと隠し持って北海道に渡ろうとした時、イヌが吠え立てた。サマイクルは怒ってイヌの口をベヌツプ（呪力のある植物）で殴ったので、それからイヌは物を言うことができなくなった（明治42年1月10日 毛根）。

⑫漁具、獵具その他食べ物でも何でも大切な物はみなシヤマイクルやポイシコツペがアイヌに教えたものだ。彼らは人間であったが、ツプカムイ（日月神）と同じくらいおそれ多い存在だ。わけてもサマイクルは特別おそれ多い（明治40年3月30日 音更村）。

⑬ヨモギと菖蒲が靈力のある草とされるの

孩變成愛努的祖先（明治40年12月24日）。

⑩シヤマイクル跟ポイシコツペ都可能 是カムイ¹，應該也是愛努人的祖先。應該是カムイ為了教導愛努所以才創造了シヤマイクル等人物（明治40年3月27日）。

文化的起源

⑪シヤマイクル想將傳授本州的小米給愛努，所以想要偷偷藏在身上打算渡海到北海

◎譯者註

1.カムイ是愛努語的 神



フキの葉に隠れる小人コロボクンクル。（イラスト：小笠原小夜）
躲在款冬葉下的矮人コロボクンクル。（插圖：小笠原小夜）

は、むかしシヤマイクルが悪者をこれで突き殺したためである（芽室町芽室太）。

神の退去

国や人、文化を生む神々は、必ずこの世界を去ることになっている。十勝では⑭シヤマイクルは国造りを終えて去るとき、あとの一切をアベカムイ（火神）、ウオロケウンカムイ（水神）、コタンコルカムイ（産土神）の三神に託した。中でもコタンコルカムイはシリペケレカムイ（太陽神）から国土を守るようにと命ぜられて天下つたとされる。降下の際に柏の木にとまったので、柏も尊ばれるようになった（明治40年2月21日 音更村）。

道時，狗突然開口吠叫了起來。シヤマイクル很生氣把ベヌツプ（有詛咒力量的植物）塞在狗嘴並打了狗，所以從此之後狗變得無法講話了（明治42年1月10日 毛根）。

⑫無論是漁具、獵具與其他食物或任何重要東西都是シヤマイクル或ポイシコツペ教導給愛努的。雖然這兩位是人類，但可說跟ツプカムイ（日月神）是相同敬畏的存在。尤其對シヤマイ

クル是特別的敬畏（明治40年3月30日 音更村）。

⑬艾草與菖蒲被視為具有靈力的草，因為以前シヤマイクル是用這種草來刺死壞人的（芽室町芽室太）。

神的離去

孕生國家、人類、文化的眾神，必定會離開這個世界。在十勝則是⑭シヤマイクル完成創造國家後離去時，將之後的所有一切託付給アベカムイ（火神）、ウオロケウンカムイ（水神）、コタンコルカムイ（土地神）這三位神。其中コタンコルカムイ被シリペケレカムイ（太陽神）命令守護國土而從天降臨到這世界。降臨時因為停在柏木上，所以柏木也受到尊崇（明治40年2月21日 音更村）。

そして⑤ボイシコツペでもシヤマイクルでも酒やイナウは決してあげない。ツプカムイ（日月神）のように畏れ多いとされたためだ（明治40年2月24日 音更村）、と述べられているように、太古の神々は祭祀の対象とならないことも多い。世界や秩序、人を生む偉業は言うまでもなく重要だが、いちどそれらが成り立ってしまえば、そこで役割が終わり存在感が薄れるのだという。

台湾との共通性

さて、こうしたアイヌの伝説や物語と台湾や日本、あるいはより広域の説話との間に多くの類似点があることが知られている。たとえば⑥-⑧に見たような巨人の足跡などが地形として残ると言う話は、北ツォウにもあるし、朝鮮半島や日本（香川県や岐阜県）にもある。また、サイシャットの説話には、人間と緊張関係にある小人との間で食物や文化の授受が行われ、やがて小人が異界へ去るとい話が見られ、これは北海道のコロボクンクルに似る。

また、原初の男女はociwcir（交合の鳥＝セキレイ）が尾を上げ下げする仕草を見て子供の作り方を知ったという伝承があるが、ブヌンやアミ、日本（栃木県）にもそのモチーフが見られる（台湾では虫、日本では猿から学んだという例もある）。⑨に見た話は、アジアに広く見られる犬祖説話の1つで、アタヤルにも例がある。

アタヤルーセデックでは、昔はコメや粟を1粒炊けば鍋いっぱいが増えたというが、十勝

然後就如同流傳所述，⑤人們絕不會將酒或イナウ² 供奉給ボイシコツペ或シヤマイクル任何一位。就同傳說中所說他們因為被認為像是ツプカムイ（日月神）一樣是相當受到敬畏的存在（明治40年2月24日 音更村），所以有很多情況是不把太古的眾神作為祭拜對象。雖然不需多說創生世界、秩序、人類的豐功偉業是很重要的，但可說這些事情一旦確立完成之後，其扮演角色就此完結，存在感也就變為稀薄。

與台灣的共同性

接著，眾所皆知上述的愛努傳說或故事與台灣或日本又或與更廣域的傳說之間有許多相似之處。比方說像是⑥-⑧所見的巨人足跡等以地形方式留存下來的故事，在北鄒也有，在朝鮮半島或日本（香川縣或岐阜縣）也有。另外賽夏族的故事之中，可看到人類與關係緊張的矮人之間進行食物或文化的傳授，最後矮人離開到了其他世界的故事，這跟北海道的コロボクンクル³相似。

另外，有傳說是說最初的男女看到ociwcir（交合の鳥＝鵲鴉）尾巴上上下下的動作才知道生孩子的方式，這也在布農族或阿美族、日本（栃木縣）的故事看到相同的故事動機（台灣是蟲、在日本也有從猴子學習的例子）。在⑨所見的故事，是亞洲可常見的

◎譯者註

2. イナウは愛努語，是木頭製作的棒狀帶流蘇的祭品
3. コロボクンクルは愛努語，意思是款冬葉下的人，也是矮人之意

地方でも指の背のくぼみに乗るだけの粟を炊けば鍋いっぱいになったという話がある。そして⑩のように、穀物を異世界から盗んでくる話はパイワンなどにあり、日本でも類例がたいへん多い。群馬県では弘法大師（高名な密教僧）が中国に渡った際、尻の間に麦を隠して持ち帰った（だから麦には割れ目がある）という。

紙幅の都合で紹介しきれないが、こうした台湾先住民との共通性を1つの契機として、アイヌの信仰にも関心を持っていただければ幸いです。

犬祖故事の一種，泰雅族也有這樣的例子。

泰雅族—賽德克族中有據說以前稻米或小米只要煮一粒就可以增加到一整鍋，十勝地區也有只要煮放在手指背面凹處的小米就可煮出整鍋小米的傳說。然後就像⑩一樣，從異世界盜取穀物的故事在排灣族等族都有，即使在日本有非常多的類似故事。在群馬縣據說弘法大師（知名的密教僧侶）渡海到中國時，在屁股之間偷藏麥穀帶回日本（所以麥子才有裂痕）。

因為篇幅關係無法全部介紹完，但與台灣原住民的共同性為一個契機，如果讀者能關注愛努信仰的話，是筆者的萬幸。◆

作者簡介 | プロフィール

北原 次郎太 mokottunas

1976年東京都生まれ、埼玉県で育ち、関東在住のアイヌ民族団体、関東ウタリ会に所属し、アイヌ文化に触れながら育つ。北海道大学で学士、千葉大学大学院で修士・博士号を取得。白老町の（一財）アイヌ民族博物館で学芸員として勤務したあと、2010年より北海道大学アイヌ・先住民研究センターに勤務。祭具の機能と形状や、神観念、シャマニズムなどを専門とする。他に、祖母の出身地である樺太（サハリン）西海岸の言語・文化を中心に、アイヌ民族の工芸、芸能、口承文芸、アイヌ語などを研究。アイヌ語や芸能、儀礼の分野で復興運動に参画し、次世代の育成にも取り組んでいる。著書に『アイヌの祭具 イナウの研究』（北海道大学図書刊行会、2014）、今石みぎわとの共著『花とイナウ—世界の中のアイヌ文化—』（北海道大学アイヌ・先住民研究センター、2015）、アイヌ語テキスト『中級アイヌ語 樺太』（アイヌ文化復興研究推進機構、2014）など。



北原 次郎太 mokottunas

1976年東京都出生，成長於埼玉縣。為關東在住の愛努民族團體、關東UTARI會成員從小接觸愛努文化長大。為北海道大學學士、於千葉大學研究所取得碩士、博士學位。曾任職於白老町的（一般財團法人）愛努民族博物館擔任館員。之後2010年起任職於北海道大學愛努・先住民研究中心。研究的專業領域為祭具功能與形狀、神觀、薩滿信仰等。其他則以祖母出身地樺太（庫頁島）西海岸的語言、文化為中心，進行愛努民族的工藝、藝能、口承文藝、愛努語等研究。參與愛努語、藝能、儀禮領域的復興運動，並致力於培養下一個世代。著作有《愛努族的祭具

inaw的研究》（北海道大學圖書刊行會，2014）、與金石Migiwa共著《花與inaw—世界之中的愛努文化—》（北海道大學愛努・先住民研究中心、2015）、愛努語講義《中級愛努語 樺太》（愛努文化復興研究推進機構、2014）等。

※UTARI為愛努語，意指同胞之意。